

最近、出張でJ Rや飛行機に乗っていると、スマホを操作している人の多さに驚きます。少し前までは、長距離移動といえば駅や空港の売店で買った文庫本や雑誌を読む人が多かったのではないのでしょうか。

昨今は「活字離れ」といわれる一方で、スマホで音楽や動画を楽しむのと同じように、本や記事を読む人も増えているように思います。電子書籍は、文字サイズや画面の明るさを調整でき、端末さえあればどこでも読める手軽さがあります。子どもやお年寄りにも優しく、現代の読書スタイルとして、今後さらに利用が伸びていくと感じています。

今年3月、帯広市図書館が現在地に移転してから20年を迎えます。蔵書数は60万冊を超え、累計来館者数は令和5年に700万人

に達しました。電子図書館やオーディオブックも整備され、図書館を利用するための間口も広がっています。

一方で、装丁や手触り、ページを開いたときのインクの匂い、厚みを意識しながら読み進む感覚は、やはり紙の本ならではの魅力だと思います。また、書架に整然と並ぶ背表紙にふと心をひかれて思いがけない一冊に巡り合う。そんな偶然も、図書館の醍醐味（だいごみ）ではないでしょうか。

私が人生で最も図書館を利用したのは大学3年生の頃です。静かで広い空間が共有された大学の図書館は、貧乏学生には夏も冬も快適で特別な場所でした。毎日、開館と同時に入館し、決まった席で勉強していたことを懐かしく思い出します。

社会環境の変化に合わせてサービスマンなど、図書館はさまざまな人の人生と本をつなぎます。また、お気に入りの本を互いに紹介し合ったりすることで、新たな気づきや刺激を受けるなど、本を通じた学びと交流の輪もさらに広がっていきます。

きつと誰にでも、人生に影響を与える一冊があるように思います。これから図書館が、そんな本との出会いを育む場として、多くの人に親しまれることを願っています。

市長コラム

夢かなうまち
おびひろ

本との出会いを育む図書館

帯広市長 米沢 則寿



「オビパラフェスタ」が、11月29日・30日に開催されました。

会場では、障害福祉事業所や関連団体による販売会やワークショップのほか、パラスポーツのデモンストレーションなどのイベントでにぎわいました。また、手話言語条例制定10周年記念事業として、ヘッドホンを着装して音のない世界を体験できる「ダイアログ・イン・サイレンス・ショーケース」も行われ、体験した人からは「耳が聞こえない状況で、伝えることの難しさや喜びを実感できた」といった声がありました。

(11月29日、よつ葉アリーナ十勝)

広報広聴課職員が行く!

オビヒロ カメラレポ



OBIHIRO CAMERA REPORT

オビパラフェスタ

「オビパラフェスタ」が、11月29日・30日に開催されました。

会場では、障害福祉事業所や関連団体による販売会やワークショップのほか、パラスポーツのデモンストレーションなどのイベントでにぎわいました。また、手話言語条例制定10周年記念事業として、ヘッドホンを着装して音のない世界を体験できる「ダイアログ・イン・サイレンス・ショーケース」も行われ、体験した人からは「耳が聞こえない状況で、伝えることの難しさや喜びを実感できた」といった声がありました。

(11月29日、よつ葉アリーナ十勝)



国際フェスタ in とかち 2026

年に1回、十勝で開催される国際交流イベントです。子ども向け英語レッスンのほか、外国料理の紹介や十勝の国際交流団体の活動展示などを行います。この機会に、国際感覚を育んでみませんか。

日時 2月7日(土)10時～15時

会場 森の交流館・十勝、JICA北海道センター（帯広）（西20南6）

申し込み 一部イベントは事前予約制です。2月3日(火)17時までに、十勝インターナショナル協会ホームページ内のWEBフォームから申し込みください。

主催 十勝インターナショナル協会



英語で遊ぼう

英会話学校の教師や国際交流員による子ども向け英語レッスン

対象 小学校中学年まで（保護者同伴）

定員 各先着50組（3回開催）



問い合わせ

森の交流館・十勝（西20南6、☎34・0122）

冬休み本探しゲーム

12月2日から1月8日までの平日限定で、図書館にて「冬休み本探しゲーム」を開催しました。

幼児や小学生を対象に、「のりもの」や「ずかん」などのキーワードが書かれたカードを渡し、ぴったりの本を3冊探せたら、帯広図書館友の会手作りのかわいいオーナメントをプレゼントしました。

参加した子どもたちは、うれしそうに探した本を見せてくれました。

(12月17日、図書館)

